2　地理歴史

学校番号	３２１

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂ	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	日本史Ｂ　（実教）						
副教材等	最新日本史図表（第一学習社）、日本史重要語句 CheckList（啓隆社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史の時間軸を実感する。

・歴史的事象にその原因と結果を考察する視点を持つ。

・過去の歴史から現在の日本の在り方を考える。

2　学習の到達目標

1　日本史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させる。

2　日本の文化と伝統の特色についての認識を深めさせる。

3　歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本の歴史の展開、文化と伝統の特色について関心を持ち、歴史的思考力を培って国際社会に主体的に生きることに課題意識を持って追究している。	日本の歴史の展開、文化と伝統の特色について課題を見いだし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察している。	日本の歴史の展開、文化と伝統の特色に関する文献、絵画、地図などの諸資料を活用することを通して、世界史的視野に立って追究し考察し、その過程や結果を適切に表現している。	日本の歴史の展開、文化と伝統の特色についての基本的な事柄を、世界史的な視野に立って、政治・経済・社会・文化などの諸要素と関連付けて理解し、その知識を身につけている。
評価方法	ワークシート レポート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート
	〔主題学習〕 振り返りシート	〔主題学習〕 レポート	〔主題学習〕 レポート	〔主題学習〕 レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	近世	第7章 幕藩体制の展開と近世文化	○		○	○	a:織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化に対して関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b:織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化から課題を見いだし、ヨーロッパ諸勢力との接触と鎖国による対外関係と関連付けて、多面的・多角的に考察している。 c:織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化に関する文献、絵画、地図の諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 d:織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化についての基本的な事柄をヨーロッパ諸勢力との接触と鎖国による対外関係と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート
		第8章 幕藩体制の動揺と文化の成熟		○	○	○	a:文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b:文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質から課題を見いだし、欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて、多面的・多角的に考察している。 c:文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質に関する文献、絵画、統計・グラフなどの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 d:文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質についての基本的な事柄を欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート
	近代	第9章 近代への転換	○	○	○		a:幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、課題意識を高め、意欲的に追究している。 b:幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、課題を見いだし、世界史的背景と関連付けて多面的多角的に考察している。 c:幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程に関する文献、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d:幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート

2学期		第10章 近代国家の形成		○		○	a:世界史的視野を意識しながら、立憲政の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程について、関心と現代に通じる課題意識を高め、意欲的に追究している。 b:世界史的視野を意識しながら、立憲政の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程について、課題を見いだし、多面的多角的に考察している。 c:立憲政の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程に関する文献、映像、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d:立憲政の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程に関する基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート
		第11章 両大戦間の日本と市民文化		○	○	○	a:第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成に対する関心と現代に通じる課題意識を高め、意欲的に追究している。 b:第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成から課題を見いだし、世界の動向と関連付けて多面的多角的に考察している。 c:第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成に関する文献、映像、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d:第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成についての基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート
		第12章 十五年戦争と日本	○	○		○	a:十五年戦争について、国際社会の動向、国内の政治・経済の動向などと関連付けながら、関心と現代に通じる課題意識を高め、意欲的に追究している。 b:十五年戦争について、国際社会と国内の政治・経済の動向などと関連付けながら課題を見いだし、アジア諸国との関係にも着目して多角的多面的に考察している。 c:十五年戦争について、国際社会と国内の政治・経済の動向と関連付けながら文献、映像、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d:十五年戦争について基本的な事柄を、国際社会と国内の政治・経済の動向と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート
3学期	現代	第13章 現代の日本と新しい文化	○	○		○	a:戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b:戦後日本の歩みと世界情勢の推移について、相互の動きを関連付けて多面的多角的に考察している。 c:戦後日本の歩みと世界情勢の推移に関する文献、映像、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d:戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	レポート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。